

平成24年度採択プログラム 中間評価調査
博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	同志社大学	整理番号	L03
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) むらた こうじ 氏名・職名 村田 晃嗣(同志社大学長・高等研究教育機構長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) わだ もとい 氏名・職名 和田 元(同志社大学高等研究教育機構副機構長)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) ないとう まさのり 氏名・職名 内藤 正典(同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・教授)		
4. 類型	L<複合領域型(多文化共生社会)>		
5.	プログラム名称	グローバル・リソース・マネジメント	
	英語名称	Global Resource Management	
	副題		
6. 授与する博士 学位分野・名称	博士(グローバル社会研究、アメリカ研究、現代アジア研究)、博士(工学)、博士(理学)、博士(神学)、博士(一神教研究)、博士(哲学)、博士(社会福祉学)、博士(産業関係学)、博士(法学)、博士(経済学)、博士(商学)、博士(政策科学)、博士(学術) 付記する名称:同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」修了		
7. 主要分科	(① 地域研究) (② 政治学) (③ 電気電子工学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	哲学、史学、人文地理学、法学、政治学、経済学、経営学、社会学、教育学、ジェンダー、応用物理学、機械工学、材料工学、地球惑星科学、土木工学、総合工学、環境創成学		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オンライン型は太枠に主要な細目を記入		
	地域研究、国際関係論、電力工学・電力変換・電気機器、電子・電気材料工学、電子デバイス・電子機器、通信・ネットワーク工学、計測工学、哲学・倫理学、宗教学、思想史、アジア史、アフリカ史、人文地理学、基礎法学、公法学、国際法学、政治学、経済政策、経営学、社会学、社会福祉学、教育社会学、ジェンダー、応用物理学一般、薄膜・表面界面物性、熱工学、無機材料・物性、地質学、水工学、地球・資源システム工学、エネルギー学、持続可能システム		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻、理工学研究科情報工学専攻、理工学研究科電気電子工学専攻、理工学研究科機械工学専攻、理工学研究科応用化学専攻、理工学研究科数理環境科学専攻、神学研究科神学専攻、文学研究科哲学専攻、社会学研究科社会福祉学専攻、社会学研究科産業関係学専攻、法学研究科公法学専攻、経済学研究科経済政策専攻(博士課程(後期))、経済学研究科理論経済学専攻(博士課程(前期))、経済学研究科応用経済学専攻(博士課程(前期))、商学研究科商学専攻、総合政策科学研究科総合政策科学専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所、株式会社三菱総合研究所海外事業研究センター、株式会社堀場製作所、日新電機株式会社技術開発研究所		

(機関名:同志社大学 類型:複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称:グローバル・リソース・マネジメント)

14. プログラム担当者の構成 計 45 名

外国人の人数 2 人 [4.4 %] 女性の人数 7 人 [15.6 %]

プログラム実施大学に属する者の割合 [88.9 %]

プログラム実施大学に属する者	40 人	プログラム実施大学以外に属する者	5 人
そのうち、他大学等を経験したことのある者	36 人	そのうち、大学等以外に属する者	4 人

15. プログラム担当者

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成26年度における役割)
(プログラム責任者)					
和田 元	ワダ モト		高等研究教育機構・副機構長、大学院理工学研究科電気電子工学専攻・教授	薄膜・表面界面物性、核融合学、プラズマ科学、Ph. D.	事業統括及び文理融合によるグローバル・リソース・マネジメントプログラムの実施責任、企画開発国際連携 (ASEAN諸国) 担当、原子力発電技術、核融合発電、先進発電科学担当
(プログラムコーディネーター)					
内藤 正典	ナイト マサリ		大学院グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻・教授	イスラームと西欧の共生、中東地域研究博士 (社会学)	プログラムの統括 多文化共生論、イスラームとの共生担当
小山田 英治	オヤマダ エイジ		大学院グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻・教授	国際関係論博士 (学術)	アシスタント・プログラム・コーディネーター (人社会統括・文理融合プログラム担当) ガバナンス論・国際開発学担当
林田 明	ハヤシダ アキラ		大学院理工学研究科数理環境科学専攻・教授	地質学、古地磁気学、岩石磁気学理学博士	アシスタント・プログラム・コーディネーター (理工系統括・文理融合プログラム担当) 国際連携 (東アジア) 担当 地球環境科学、自然資源マネジメント科学、インフラ工学担当
位田 隆一	イタ リュウイチ		大学院グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻・教授	国際生命倫理、国際法学 D. E. A.	国際機関との連携担当 共生のための倫理と法担当
中西 久枝	ナカニシ ヒサエ		大学院グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻・教授	国際関係論、国際協力論 Ph. D. in history	国際連携 (中東・中央アジア) 担当 紛争抑止と平和構築担当
岡野 八代	オカノ ヤヨ		大学院グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻・教授	ジェンダー、新領域法学、基礎法学博士 (政治学)	国際機関・国際NGOとの連携、海外とのインターンシップ担当 共生とジェンダー・正義論担当
加藤 千洋	カトウ チヒロ		大学院グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻・教授	現代中国社会研究、中国メディア研究 経済学修士	産学連携、キャリア形成、広報担当 現代中国政治、日中関係担当
巖 善平	イワ センペイ		大学院グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻・教授	経済政策 農学博士	中国経済の展望とグローバル化担当
峯 陽一	ミネ ヨウイチ		大学院グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻・教授	経済政策 (含経済事情) 経済学修士	グローバル・リーダー養成担当 人間の安全保障担当
Anne Gonon	アンス ゴノン		大学院グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻・教授	政治社会学、公共性の社会学 経済学修士	共生のための地球市民社会論担当
岩坂 将充	イワサカ マサミチ		高等研究教育機構高等教育院 准教授	地域研究、現代トルコ政治、民主化・政変関係 博士 (地域研究)	グローバル・リソース・マネジメントプログラム・オフィサー (文系) として文理融合によるグローバル・リソース・マネジメントプログラムの企画開発、運用管理 キャリア形成担当、国際連携のロジスティクス担当
Idiris DANISMAZ	イディリス ダニスマズ		高等研究教育機構高等教育院 助教	地域研究、イスラーム思想 博士 (イスラーム地域研究)	グローバル・リソース・マネジメントキャリア・コーディネーター キャリア開発、キャリア教育担当
橋本 雅文	ハシモト マサフミ		大学院理工学研究科情報工学専攻・教授	味・匂い・触覚の認識、センシング情報学 工学博士	産学連携教育部門統括 インフラセンシング科学担当
長岡 直人	ナガオカ ナオト		大学院理工学研究科電気電子工学専攻・教授	電力工学、電気機器工学 博士 (工学)	理系広報担当 計算機科学、数値解析学、電力インフラ科学・環境学担当
辻 幹男	ツジ ミキオ		大学院理工学研究科電気電子工学専攻・教授	電子デバイス、電子機器、電磁波工学 工学博士	理工学分野の戦略的研究開発推進学担当 超高周波科学・工学、電磁波環境学担当
藤原 耕二	フジワラ コウジ		大学院理工学研究科電気電子工学専攻・教授	電力工学、電気機器工学 博士 (工学)	先進的電力変換学、複合電気機器学、社会インフラ用電気機器学担当
笹岡 秀一	ササオカ ヒロユキ		大学院理工学研究科電気電子工学専攻・教授	通信・ネットワーク工学 博士 (工学)	通信インフラ科学、通信方式学、通信セキュリティ科学担当
吉門 進三	ヨシカド シンゾウ		大学院理工学研究科電気電子工学専攻・教授	電子・電気材料工学 博士 (工学)	電気電子材料科学、希少資源管理学、高効率発電・蓄電工学担当
加藤 利次	カトウ トシジ		大学院理工学研究科電気電子工学専攻・教授	電力工学、電気機器工学 工学博士	電気回路学、高効率電気制御学、高信頼性インフラ用制御システム学担当
松川 真美	マツカワ マミ		大学院理工学研究科電気電子工学専攻・教授	計測工学、応用物理学一般 博士 (工学)	国際連携 (欧州) 担当 医用電子技術インフラ、超音波工学担当
千田 二郎	チエダ ジロウ		大学院理工学研究科機械工学専攻・教授	噴霧燃焼工学、エネルギーデザイン 工学博士	環境エネルギー科学、分散型発電システム、エネルギーインフラコスト担当
稲葉 稔	イナバ ミル		大学院理工学研究科応用化学専攻・教授	電気化学、無機材料・物性 博士 (工学)	先進的電気化学エネルギー変換学、資源材料科学、材料マネジメント科学担当
盛満 正嗣	モリミツ マサツグ		大学院理工学研究科数理環境科学専攻・教授	物理化学、無機化学、無機材料 博士 (工学)	電気化学表面プロセス、化学エネルギー工学、インフラ環境保全化学担当
中田 眞佐美	ナカタ マサミ		高等研究教育機構高等教育院 准教授	エネルギー政策、エネルギー安全管理、材料工学 博士 (工学)	グローバル・リソース・マネジメントプログラム・オフィサー (理系) として文理融合によるグローバル・リソース・マネジメントプログラムの企画開発、運用管理 キャリア形成担当、国際連携のロジスティクス担当

(機関名:同志社大学 類型:複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称:グローバル・リソース・マネジメント)

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成26年度における役割)
上田 光明	ウエダ ミツキ		高等研究教育機構高等教育院・助教	福祉社会学、 犯罪社会学 博士(福祉社会学)	グローバル・リソース・マネジメントキャリア・コー ディネーター キャリア開発、キャリア教育担当
小原 克博	コハラ カツヒロ		大学院神学研究科神学専攻・教授	宗教学、神学、 哲学・倫理学 博士(神学)	宗教間の共生と政治担当
田端 信廣	タハタ ノブヒロ		大学院文学研究科哲学専攻・教授	思想史、哲学、 倫理学 文学修士	共生のための思想史
工藤 和男	クドウ カズオ		大学院文学研究科哲学専攻・教授	哲学・倫理学、 思想史 博士(哲学)	共生のための倫理担当
埋橋 孝文	ウズハシ タカミ		大学院社会学研究科社会福祉学専攻・教授	社会福祉学、 社会政策 博士(経済学)	福祉国家と共生担当
木原 活信	キハラ カツノブ		大学院社会学研究科社会福祉学専攻・教授	社会福祉学、ソー シャルワーク 博士(社会福祉学)	共生のための福祉実践思想
浦坂 純子	ウラサカ ジュンコ		大学院社会学研究科産業関係学専攻・教授	経済政策 博士(経済学)	共生のための労働政策
新井 京	アライ キョウ		大学院法学研究科公法学専攻・教授	国際法学 修士(法学)	国際公法と紛争抑止担当
濱 真一郎	ハマ シンイチロウ		大学院法学研究科公法学専攻・教授	基礎法学、 法哲学、法思想史 博士(法学)	共生のための法思想担当
八木 匡	ヤギ タカシ		大学院経済学研究科経済政策専攻(博士課程(後 期))、同理論経済学専攻(博士課程(前期))、 同応用経済学専攻(博士課程(前期))・教授	財政学・金融論、 公共投資理論 博士(経済学)	共生のための公共経済学担当
上田 慧	ウエダ サトシ		大学院商学研究科商学専攻・教授	経済政策、経営 学、多国籍企業 博士(商学)	多国籍企業と地球共生社会担当
風間 規男	カザマ ノリオ		大学院総合政策科学研究科総合政策科学専攻・ 教授	政治学 博士(政治学)	共生のための政策ネットワーク担当
川浦 昭彦	カワウラ アキヒコ		大学院総合政策科学研究科総合政策科学専攻・ 教授	経済政策 博士(経済学)	共生のための経済政策と民主化担当
月村 太郎	ツキムラ タロウ		大学院総合政策科学研究科総合政策科学専攻・ 教授	国際関係論 法学士	国際政治と多文化共生担当
浜 矩子	ハマ ノリコ		大学院ビジネス研究科ビジネス専攻・教授	国際経済の マクロ分析 経済学士	産学連携・広報担当 国際経済のマクロ分析担当
窪田 順平	クボタ ジュンペイ		大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地 球環境学研究所・副所長、教授	水文学、森林水文 学、砂防学 農学博士	共生のための地球環境論担当
宇佐美 暁	ウサミ サトシ		株式会社三菱総合研究所海外事業研究センター・副センター長、 国際政策推進グループリーダー・主席研究員/同志社大学大学院 グローバル・スタディーズ研究科・嘱託講師	外交・安全保障、 現代アジア・中国 法学修士	国際産学連携担当
嶋田 晴行	シマタ ハルユキ		独立行政法人国際協力機構(JICA)南アジア部南 アジア第2課・企画役/同志社大学大学院グロー バル・スタディーズ研究科・嘱託講師	脆弱国の経済・ 社会発展論 修士(社会学)	国際協力連携担当 アフガニスタン復興支援担当
石田 耕三	イシダ コウゾウ		株式会社堀場製作所・取締役副社長/同志社大 学大学院理工学研究科連携大学院・客員教授	熱力学、噴霧燃焼 工学、半導体工学 工学博士	産学連携に基づく実務教育担当 計測化学、環境保全学、電力消費量抑制担当
松原 克夫	マツハラ キクフ		日新電機株式会社 技術開発研究所・技師長/ 同志社大学院大学理工学研究科連携大学院・客 員教授	電力・高電圧 機器開発 博士(工学)	産学連携に基づく実務教育担当 電力・高電圧機器、電力インフラ学、電力資源最適化 担当
雨谷 昭弘	アメタニ アキヒロ		大学院理工学研究科電気電子工学専攻・教授	電力工学、インフ ラ工学、Ph. D.(工 学)	アシスタント・プログラマー・コーディネーター(理工系統括・文理 融合プログラム担当)インフラ工学担当
見原 礼子	ミハラ レイコ		高等研究教育機構高等教育院・准教授	比較教育学、教育社会学 博士(社会学)	グローバル・リソース・マネジメントプログラム・オフィサー(文系)として文理融合 によるグローバル・リソース・マネジメントプログラムの企画開発、運用管理 キャリア形成担当、国際連携のロジスティクス担当
亀田 尚己	カメタ ナオキ		大学院商学研究科商学専攻・教授	国際ビジネスコミュニ ケーション、国際商取 引論	共生のためのコミュニケーション担当
佐藤 洋一郎	サトウ ヨウイチロウ		大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地 球環境学研究所・副所長、教授	植物遺伝学、 地球環境学 農学博士	共生のための地球環境論担当

(機関名:同志社大学 類型:複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称:グローバル・リソース・マネジメント)

16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数

本学位プログラムの過去3年間のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 *(今後の募集予定: 有 無)	
プログラム募集定員数(実数)	人	15人	15人	15人	
① 応募学生数	人	15人	21人	17人	
	うち留学生数	人	4人	11人	9人
	うち自大学出身者数	人(人)	6人(3人)	10人(4人)	6人(3人)
	うち他大学出身者数	人(人)	9人(4人)	11人(5人)	11人(5人)
	うち社会人学生数	人(人)	1人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
うち女性数	人(人)	7人(2人)	9人(5人)	8人(6人)	
② 合格者数	人	13人	13人	10人	
	うち留学生数	人	4人	8人	4人
	うち自大学出身者数	人(人)	4人(1人)	5人(3人)	3人(0人)
	うち他大学出身者数	人(人)	9人(4人)	8人(4人)	7人(3人)
	うち社会人学生数	人(人)	1人(0人)	1人(0人)	0人(0人)
うち女性数	人(人)	5人(1人)	7人(4人)	3人(3人)	
③ ②のうち受講学生数	人	13人	13人	10人	
	うち留学生数	人	4人	8人	4人
	うち自大学出身者数	人(人)	5人(1人)	5人(3人)	3人(0人)
	うち他大学出身者数	人(人)	8人(4人)	8人(4人)	7人(3人)
	うち社会人学生数	人(人)	1人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
うち女性数	人(人)	5人(1人)	7人(4人)	3人(3人)	
プログラム合格倍率(①応募学生数/②合格者数)(小数点第二位を四捨五入)	0.00倍	1.15倍	1.62倍	1.70倍	
充足率(合格者数/募集定員)	0.00%	87.00%	87.00%	67.00%	

※うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()には留学生数を内数で記入してください。

※平成27年度*(今後の募集予定:有・無)については、平成27年度内に受講を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記載してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

①区分制及び一貫制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度						平成25年度						平成26年度						平成27年度						平成28年度	平成29年度
	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計		
平成24年度選抜						0						0						0						0		
うち留学生数						0						0						0						0		
うち自大学出身者数						0						0						0						0		
うち他大学出身者数						0						0						0						0		
うち社会人学生数						0						0						0						0		
うち女性数						0						0						0						0		
平成25年度選抜																										
うち留学生数																										
うち自大学出身者数																										
うち他大学出身者数																										
うち社会人学生数																										
うち女性数																										
平成26年度選抜																										
うち留学生数																										
うち自大学出身者数																										
うち他大学出身者数																										
うち社会人学生数																										
うち女性数																										
平成27年度選抜																										
うち留学生数																										
うち自大学出身者数																										
うち他大学出身者数																										
うち社会人学生数																										
うち女性数																										
計	0	0	0	0	0	0	0	6	7	0	0	13	0	10	7	7	0	24	0	8	15	6	5	34		
修了者数							-						-						4						6	16
就職者数							-						-													
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数							10						11						10							

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.Eによるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数

各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度					平成25年度					平成26年度					平成27年度					平成28年度	平成29年度
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計		
平成24年度選抜					0					0					0					0		
うち留学生数					0					0					0					0		
うち自大学出身者数					0					0					0					0		
うち他大学出身者数					0					0					0					0		
うち社会人学生数					0					0					0					0		
うち女性数					0					0					0					0		
平成25年度選抜										0					0					0		
うち留学生数										0					0					0		
うち自大学出身者数										0					0					0		
うち他大学出身者数										0					0					0		
うち社会人学生数										0					0					0		
うち女性数										0					0					0		
平成26年度選抜															0					0		
うち留学生数															0					0		
うち自大学出身者数															0					0		
うち他大学出身者数															0					0		
うち社会人学生数															0					0		
うち女性数															0					0		
平成27年度選抜																				0		
うち留学生数																				0		
うち自大学出身者数																				0		
うち他大学出身者数																				0		
うち社会人学生数																				0		
うち女性数																				0		
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
修了者数																						
就職者数																						
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数																						

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】本プログラムは、人間生活の基盤となる資源・エネルギー科学と、地球規模課題を扱うグローバル・スタディーズの融合を基に「グローバル・リソース・マネジメント」という文理融合の学際領域を設定し、博士前期・後期課程一貫プログラムを構成する。強靱な精神と高度な倫理観をもって、今日、最も困難な状況にある国から、新興国までをパートナーとして活躍していくグローバル・リーダーの養成を目指すものである。本プログラムが養成する人材像とは、①災害、紛争、貧困など、生存が危機に瀕する過酷な状況にある人々に寄り添い、共に学ぶことによって困難を打開する志を持ち、②そのために必要な人文・社会科学と自然科学の諸領域を統合知として修得する学徒であり、③文理融合の知を基に、「公正」のなんたるかを意識しつつ、宗教間、民族間の共生を志向し、地球的課題としての困難の発生を抑止し、また発生した困難からの復興と発展に取り組む。④同時に、困難から脱して、発展の途上にある新興国において発展の持続性と格差の縮小に取り組むことで、これらの諸国と戦略的パートナーシップを築いていく。今日、東アジア、東南アジア、中東、中央アジアは経済成長の過程にあり、G20 諸国および、それに次ぐ成長を実現している諸国は数多い。博士学位を有する高度専門職業人のキャリアパスとして、これらの地域をターゲットとするところに本プログラムの特色があるが、その先には、困難から発展への道筋を自ら経験することにより、その知見と経験を将来の日本の発展へとつなげるという目標をもつ。

【特色】現代世界の閉塞的状況を突破するためには、人間生活の物質的基盤（インフラストラクチャー）、社会的基盤、精神的基盤の3領域を統合的に扱う新領域の創造が必要である。そのために、同志社大学が長年にわたって高度な研究・教育実績を有する資源・エネルギーに関わる自然科学・理工学的知の体系と、多文化共生に関わる人文・社会科学的知の体系を統合した文理融合による博士課程プログラムを創造する。自然科学・理工学系からは、電力、エネルギー、情報通信、交通、水資源管理の領域がプログラムに参加する。人文・社会科学系からは国際的に研究をリードする多文化共生、人間の安全保障、紛争抑止、平和構築、開発学、政策科学、社会学、社会福祉学等の領域がプログラムに参加する。中でも、イスラームとの共生をグローバルな多文化共生実現の課題として重視する点が特色である。

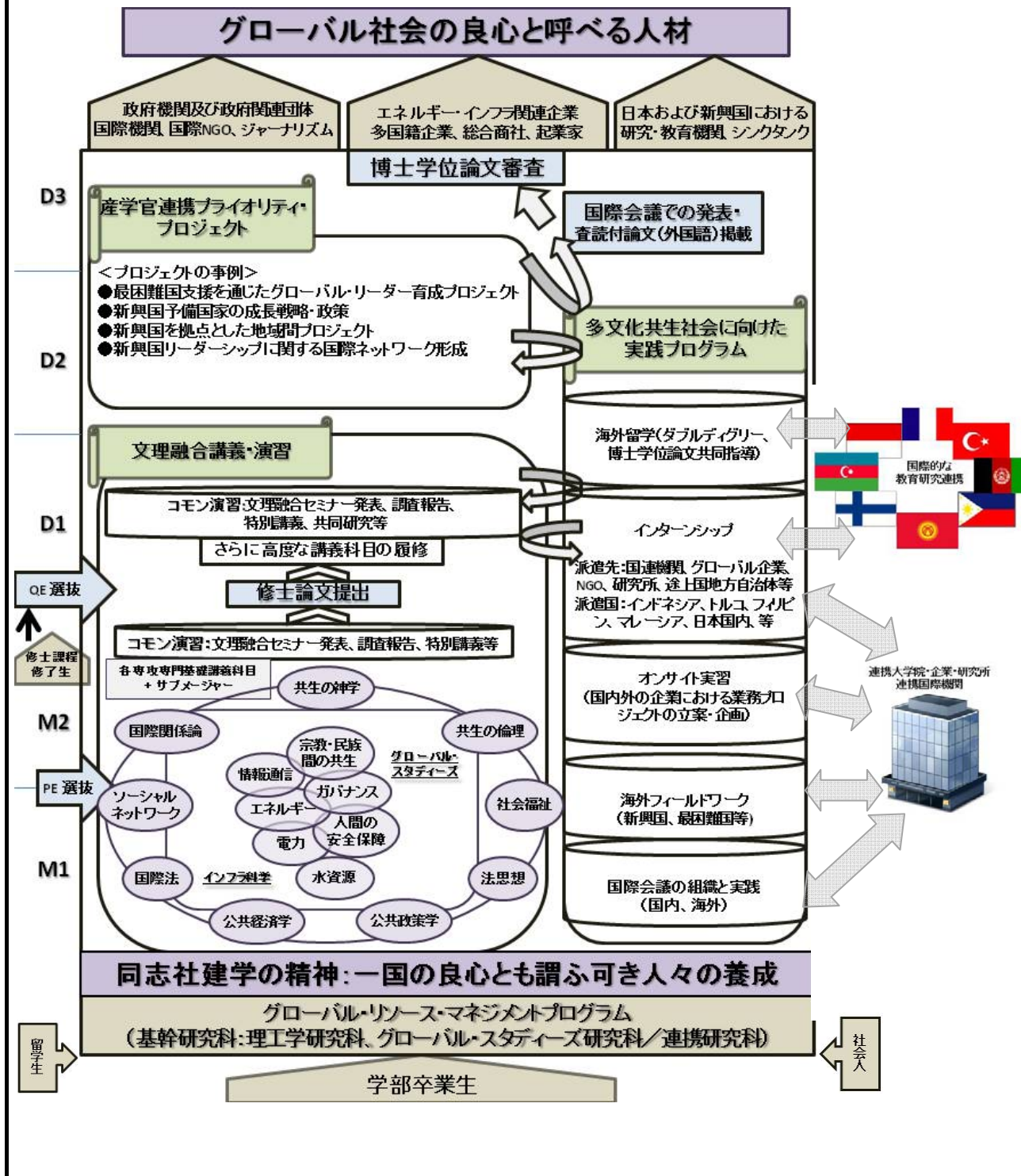
産・官・学・民にわたるグローバル・リーダーの養成には、広範な学外連携による博士学位プログラムの実践が不可欠である。留学・国際インターンシップにより在学中に繰り返し連携機関への派遣を行うことにより、高度専門職業人の養成を前提とした頭脳循環を活性化させる。世界の先端的研究水準の研究機関とは、エコール・セントラル国立理工科学院連合（フランス）とのダブル・ディグリー制度等で実績を有し、新興国との間には国立フィリピン大学等多数の連携機関と留学・インターンシップ協定をもつ。最困難国との間には、中東情勢悪化に伴い、治安情勢に配慮しつつ、パレスチナ、アフガニスタンとの間で高等教育支援に関するフィージビリティを調査中である。産業界との間には、掘場製作所や三菱総合研究所を始め多数の先端企業とのあいだに連携大学院を構成し、国内外でのインターンシップ実現の基盤は整っている。グローバル・リーダー養成に不可欠の国際機関との連携は、UNESCO や UNDP との連携関係を活用する。「京都議定書」によって広く地球上の共生に貢献した京都の特性を活かし、人間文化研究機構総合地球環境学研究所との間に機関連携を締結しており、京都から世界にむけて「共生」の新たなモデルを発信するという世界的意義をもつ。

【優位性】心の平安は多文化共生社会の基である。この点において、同志社大学がキリスト教のみならずイスラーム、ユダヤ教を含めた統合的一神教学際研究を 21 世紀 COE プログラム及び私立大学戦略的研究基盤形成支援事業を基に高度化させたことの優位性は際立っている。本学の創設者、新島 襄は 1864(元治元)年、国禁を犯して函館から海外に脱出した。進取の気風を尊重する校風の原点はここにある。同時に彼は、一国の良心たる人材の養成を本学設立の旨意に掲げている。それゆえ、本プログラムは先進諸国における成功者（リーダー）養成機関を模倣しない。建学の精神を基盤とし、現代世界にとって喫緊の課題である異文化との摩擦や衝突を回避するための学知と資源・エネルギーに関する学知を修得することで、人類社会に平和と安寧を実現することこそ、私学としての同志社大学が本プログラムを申請することの主旨である。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

同志社大学グローバル・リソース・マネジメントプログラムの概念図



「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	同志社大学	整理番号	L03
プログラム名称	グローバル・リソース・マネジメント		
プログラム責任者	和田 元	プログラム コーディネーター	内藤 正典

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

〔総括評価〕

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

〔コメント〕

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、最も困難な状況にある国の人々が直面する地球規模の課題に取り組むグローバルリーダーを育成するというビジョンを実現するため、当初の理念・目的に沿った体制の構築と各種取組への努力・工夫が粘り強く積み上げられていることは評価できる。育成しようとするグローバルリーダー像も明確であり、文理融合型教育を掲げ、多文化共生に関する知識だけでなく現場で実効的に生かすことのできる技能の習得を目指す意欲的なプログラムであることは高く評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、文系及び理系の学生が共修する「グローバルリソースマネジメント（GRM）コモン演習」、「GRM オンサイト実習」などの共通科目とサブ・メジャー科目を備えたカリキュラムが体系的に整備されており、学生が俯瞰的・汎用的能力を身に付けることが期待される。また、専任教員となるキャリアコーディネーターを2名雇用し、学生に対して手厚いキャリア支援が行われている点も評価できる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導體制の整備については、GRM レジデント・メンターなど独自のシステムを導入し、支援体制が整備されている。学生のニーズに配慮し、開講されていない少数言語科目については学外から講師を招聘するなどの教育環境の整備を行うなど、きめ細かい工夫がなされていることも評価できる。

優秀な学生の獲得については、上記のようなきめ細かい指導體制と GRM 特別奨励金制度により、優秀な学生を獲得することに成功していると考えられるが、定員充足に向けて引き続き努力が求められる。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、Qualifying Examination など学位の質を保証する評価体制が構築されている。

事業の定着・発展については、支援期間終了後を見据えて、全学的に本プログラムを常置化する方向で既に計画されているところが評価できる。今後は、継続のための資金確保と並行して、プログラムが掲げる理念や教育内容が大学全体で共有され、プログラム担当教員だけでなく担当外の教員からの積極的な協力を得ることが、持続的にこのプログラムを定着・発展させる鍵であり、粘り強い努力が求められる。